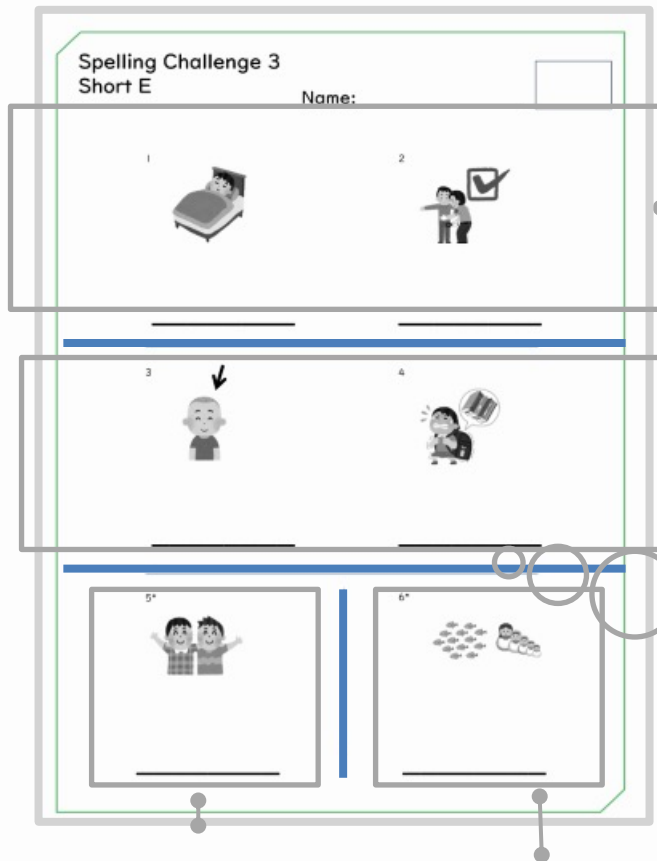


# チャレンジシートの使い方

(お子さまに事前にご案内ください)

## ◆取り組むタイミングとしくみ

- 1つの音のいろいろな「書き方パターン」が終わり、●●●●●の線まで来たら、まずその音についての全ての「書き方パターン」を復習します。
- 復習の後、このチャレンジシートに取り組みます。
- チャレンジシートに音声は付いていませんが、単語もイラストもすべて本で既習のものから抜粋しています。英語が読める保護者様・指導者様がいらっしゃる場合、読み上げていただいてもいいでしょう。
- 1つの音に1つしか「書き方パターン」がない場合は、チャレンジシートはありません。(例 ウアの音→ureしかない)
- 「書き方パターン」が変わるときは、ヒントとして青線が引かれています。つまり、線が出てくるまでは、同じ「書き方パターン」で書くことになります。(このヒントは、お子さまに事前に伝えていただいてもかまいません)



ここまでは同じ「書き方パターン」  
(この場合は、エの音を「e」で書く)

ここは次の「書き方パターン」  
(この場合は、エの音を「ea」で書く)

「ここから『書き方パターン』が変わることを教えてしまっただけでは練習にならないのでは」と思われがちですが、パターンが頭に定着していないと、このヒントがあっても間違えます。

1つ1つの単語のスペリングを覚えればよいのではなく、パターンの習得が目的なので、パターンごとに書けることを重視の方が実力が付きます。

それぞれ別の「書き方パターン」  
(この場合は、エの音を「ie」や「a」で書く)

## ◆丸付け、採点の仕方

- ▶ 終わったら、お子さまご自身で、または指導者が丸付けをしてください。
- ▶ 採点することもできます。  
その際は、1つの方法として、以下の(1)～(2)のようにされることもお勧めです。

(1) スペリング全部が正解でなくても、書き方パターンが正しく書けていたら、青ペンでの丸(または△)をします。

例 「エの音」を練習したとき  
ヘヴィ(重い)

*heavy* … 赤ペンでの丸 (正解)

*heaby* … 青ペンでの丸 (他に間違いはあるが、「エの音はeaで書く」は正解)

*hev*y … × (他に間違いはないものの、「エの音はeaで書く」が不正解)

英語のスペリングは非常に複雑であり、複数の学習ポイントを同時にやらせようとすると、多くの場合、かえって習得が遅れます。  
子どものやる気にも悪影響が出ます。

1つ1つの「書き方パターン」に集中させているので、まずはそのパターンが正しく使えることを重視します。  
ただし、間違った部分が正しくはどうであるかは、認識はさせます。

ここで重要なのは、その単語を正しく書けたかではなく、  
「その書き方がパターンであること」を正しく習得できたかです。  
(上の例のbとvの違いは、ステージ2【子音】にて練習します)

(青ペン丸でなく、△でもかまいません)

(2) 点数をつける場合は、習った「書き方パターン」が正しかったか次第で、部分点を付けます。

例 完全正答 … 3点  
「書き方パターン」は正答(青ペン丸) … 2点  
不正答 … 0点

問題数は、チャレンジシートによって異なるので、点数を付ける際は、

$$\frac{\text{総得点}}{\text{満点(そのチャレンジシートの問題数} \times 3\text{点)}} \times 100 = \text{点数}$$

例 8問あるチャレンジシートで、正答が3問、青ペン丸が4問、×が1問だった場合

$$\frac{3\text{点} \times 3 + 2\text{点} \times 4}{3\text{点} \times 8} = \frac{17}{24} = 0.71 \rightarrow 71\text{点}$$

英語のスペリングは難しいので、高い点数はなかなか取れないものです。  
お子さまのご性格によって以下の対応にてご調整ください。

- ・そもそも点数は付けない(赤丸と青と控えめな×のみ)
- ・初めは点数は付けず、間違い部分を直してから点数を付ける  
(それなりに良い点数になって初めて点数を付けるのも可)

\* (アスタリスク) がついた難しい「書き方パターン」の練習を飛ばした場合、チャレンジシート上のアスタリスク付き問題は飛ばしてください。